

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 喜々)

事業所番号	0693000051		
法人名	株式会社 ライフネット		
事業所名	認知症対応型共同生活介護施設 グループホーム ほなみ家		
所在地	山形県東田川郡庄内町余目字四ツ野興123		
自己評価作成日	平成 29年 7月 7日	開設年月日	平成22年 9月 30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の人格を尊重し、自分らしく最良の生活が送れるよう、一人一人の思いや気持ちに寄り添い、その人らしい生活を支えてまいります。地域のつながりを大切にし、家庭的な雰囲気の中できめ細やかな支援をし、季節を感じられるよう外出や行事を企画し、実行しております。安心し、また、張りのある生活を送れるよう役割を持って頂き、利用者様と一緒に泣き笑いし自然体でお付き合いをし、パートナーとして生活を共にしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成 27年 7月 24日	評価結果決定日	平成 29年 8月 3日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自 己	外 部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットのスタッフルームと玄関に掲示し、理念を常に念頭に置き、家庭的な雰囲気の中で利用者様一人ひとりに寄り添ったケアを行えるよう日々のケアで実践しております。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や外出等で積極的に地域に出掛け、近所の方に声を掛けて頂く機会が増えました。又、廃品回収等の地域活動の参加やボランティアや慰問、自家菜園野菜を頂く等で交流をしております。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターキャラバンメイトに参加し、認知症への理解や知識の発信を行っています。	/		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に開催し、事業所の取組みやサービス状況などを報告し、質疑応答での話し合いを受け、サービス向上に活かしております。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の担当者とは密に連絡を取るようにし、積極的に協力関係を築けるよう努めております。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	スタッフ会議や研修等で学び、身体拘束となる具体的な行為等は理解できております。確認、見守り、付添等行い安全を確保し、自分らしい生活を守るケアに努め、工夫しながら身体拘束ゼロに取り組み、実践しております。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修、外部研修等で高齢者虐待の知識を身につけ、日頃から利用者様を観察し、職員間で情報交換を行い、見過ごされることの無いよう虐待防止に努めております。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、レポートにまとめて回覧し理解を深めております。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、納得、同意を得た上で契約を交わしております。また、生活状況や発生されると思われる事柄についても事前によく話し合い、理解と納得を頂いております。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、利用者様の要望等は、個々に合った落ち着いた時間帯に個別に傾聴し、また、日常会話から汲み取るよう努めております。ご家族には面会時等に要望を伺っており、運営に活かしております。			
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度のスタッフ会議、年に一度の代表との個人面談にて要望や提案を出し合って話し合い、意見を取り入れたり改善しております。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課や代表との個人面談にて職員や業務の現状を把握し、働きやすい環境づくりや整備に努めております。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年二回以上の施設内講習(外部より講師をまねいて)や、職員のスキルに合った、もしくは本人の希望した外部研修にも積極的に参加をしており、復命書によって他職員へ周知、情報の共有を図っております。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修会や交流会等に参加し、意見や情報交換を行い、サービスの向上に反映させております。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の不安軽減の為、本人の不安や要望をしっかりと傾聴し、都度親身になって対応し安心していただけるようなサービスを行うことで良い関係づくりに努めております。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や悩み、要望を傾聴し、コミュニケーションを密にとりながら個々に合ったサービスの提供を行うことで良好な関係づくりに努めております。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前訪問や施設見学の機会を設け、本人やご家族の抱える不安や悩みを傾聴し、本人本位の支援ができるよう必要なサービスを見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めております。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物や掃除、料理等、個々のできる範囲で作業を一緒に行ったり、一緒に過ごす時間を多くとり、「共に暮らす」という意識を持ち、信頼関係を築いていけるよう努めております。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の近況報告を行いながら、また、ご家族の希望や気持ちを受け止め、できるだけ協力して頂きながら共に本人を支え合える関係を築いております。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の面会時に、居室でゆっくりと過ごしていただけるよう心掛け、関係が途切れないよう馴染みの関係を大切にしております。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	表情、態度、言動などの変化を察知し、職員が間に入って皆でレクや作業に参加して頂き、トラブルや孤立ことなく過ごせるよう配慮している。席の配置も工夫している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への転所時は、十分な情報提供を行い、また、気持ちよく退所していただけるようご家族とともに準備しております。入院時も十分な情報提供を行っております。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から情報を集め、本人のこだわりや習慣等を大切にしながら、一人ひとりの思いや希望に沿った生活が送れるよう支援しております。聞き取り困難な方は生活歴を考慮したり、本人の立場に立って考え、対応しております。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の会話や家族との会話から生活歴や習慣等の情報を集め、また、趣味や嗜好品等も把握し、本人本位の生活環境をつくれるよう努めております。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情や言動から心身の状況把握に努め、状態により柔軟に対応を変えて対応しております。また、状況の変化を記録し職員間で情報を共有しております。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族から要望等聞き取り、話し合いながらアセスメントやモニタリングを作成しております。また、状況の変化に応じて都度話し合い、変更しております。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いつもと違う訴えや様子がないか観察し、日々の気づきを介護記録や申し送りノートを活用しながら情報を共有しております。それを基に日々の支援や介護計画の見直しに取り組んでおります。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	慰問やボランティア、防災訓練等で地域の方と交流し、地域の一員として生活を送っております。一人ひとりの得意な事を把握し、力を発揮できるよう支援しております。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科と歯科医の定期的な往診の際、情報提供を行っております。また、健康管理を重視し、異常の早期発見に努め、体調不良の際には本人、ご家族の希望に沿えるよう訪問看護や受診をしております。			
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護師や訪問看護師と情報を共有し、利用者様に関する事を相談したり、一人ひとりへの対処、対応の方法や助言を得ております。また、必要に応じ往診や受診をしております。			
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族や病院関係者と連絡を密に取り合い、状況や様子、結果等の情報交換を行っており、退院時は食事介助の様子等、実際に病院に出向いて、退院後の適切なケアに活かしております。			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについての研修を職員で共有しております。終末期には医療機関やご家族と密に連絡を取り合い方針を共有し、その人らしい最後を迎えられるよう情報交換を行いながら支援しております。また、職員も慌てず対応できるようチームで一丸となり支援に取り組んでおります。			
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	速やかな対応が出来るよう、施設内研修で救命救急講習会を開催し、知識や実践力を習得しております。また、緊急時対応マニュアルがあり、スタッフルームに掲示されております。			

自己	外部	項目	自己評価	
			実践状況	外部評価
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、防災訓練や避難訓練を実施し、消防署からの訓練指導を受けております。今年度は水害対策訓練を行い、車での避難、経路確認を実施しました。また、地域の方からも連絡網に入っております。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の思いや気持ち、性格を把握し、一人ひとりの人格を常に意識し、本人の尊厳を傷つけないよう、また、プライバシーに配慮した言葉を選び、声掛けや対応を行っております。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示しやすい環境づくりに努め、自己決定ができるよう働きかけております。うまく伝えられない方には声掛けを工夫したり選択肢を提示し、表情などを観察して判断しております。	
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースや一日の過ごし方を理解、把握し、本人に合わせた声掛けや誘い方に配慮し、その日の体調や気分、状態により本人の希望に沿えるよう対応しております。仕草や行動を見極め、個々の生活への思いを察するよう配慮しております。	
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時に着る服を選んで頂いたり、出張理容にて希望の髪形に散髪したり、髪をピンで留めたりカーラーで巻いたりとおしゃれを楽しまれております。利用者のこだわりや好みを尊重しながら清潔感を心掛け、季節や気温、場所に適した衣類等のアドバイスをしております。	
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	給食委員会で嗜好調査を行い、旬の食材や行事食等の提供、利用者様の好む食材や調理法を活かし、味付けや盛り付けを工夫しております。個々の食事形態や禁忌食、嫌いな物を把握し、バランスよく喜んで頂ける献立作りをしております。	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事形態で提供し、水分、食事量を確保できるようにしております。チェック表にて摂取量を把握し、食事が十分でない方には高カロリー食を、水分不足の方にはゼリーや寒天等好んでとって頂ける物を工夫しております。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行って頂き、できない所は一部介助を行っております。歯科医と連携し、利用者様一人ひとりに必要なケアの助言を頂き、実施しております。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックを行い排泄パターンを把握し、個々に合った対応で定時、随時で声掛け誘導を行い、尿意を訴えられない方は排泄の兆候を確認したら誘導し失敗を減らすよう努めております。また、トイレで排泄できるよう下肢筋力の低下防止にも努めております。			
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて状況を把握し、主治医や看護師と連携をとり個々に合った排便コントロールを行っております。朝に白湯や牛乳を提供したり、体操や運動をして水分を多くとって頂き、腸の動きを活発にして便秘解消に取り組んでおります。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週二回の入浴日を設けていますが、その日の体調や本人の希望に合わせて時間や曜日を変更し、希望に沿うよう調整しております。入浴中は会話やマッサージ等を行い、リラックスできるよう配慮しております。個浴が困難な方には機械浴を利用して頂いております。			
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や疲労感等、その時の状況に応じ、休息をとれる環境を整えております。日中に活動の場を提供し、夜間は安眠し生活のリズムが整うよう支援しております。また、季節や気温の状況を考え、寝具、室温、寝間着等個々に合った物を提供し、気持ちよく就寝できるよう支援しております。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの既往歴や疾患の特徴、内服薬の用法用量、副作用等、各担当者がリストをまとめ、いつでも確認できるようにしております。服薬時も職員二人以上でチェックし、確実に服用できたか確認しております。また、症状の変化を観察し、主治医に随時報告しております。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意な分野で力を発揮して頂き、役割を持ちメリハリのある生活が送れるよう支援しております。また、慰問や散歩、行事等行い気分転換を図ったり、趣味活動を行い、楽しみながら生き生きとした生活ができるよう支援しております。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を得て外食や一時帰宅等、希望に沿えるよう支援しております。天気の良い日は戸外に出て、日光浴や散歩を楽しんでおります。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の金銭管理能力に応じ、ご家族と相談しながら自分で管理するか、ご家族で管理するか決定しております。所持金を自分で管理している方は、必要に合わせ買い物等行っております。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけております。手紙や宅急便が届いた際は電話し、お礼の手紙や写真を送ったりしております。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に整理整頓に努め、温度・湿度計を目安に必要な室温、湿度調整、換気を行い利用者様の体調や様子を観察しながら快適に過ごして頂けるよう調整しております。掲示スペースには利用者様が作成した作品や季節感のある飾り物をしております。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室や廊下のベンチ、ソファ、食卓のテーブルと、一人になりたい時、他者と仲良く過ごしたい時等、自由に行き来し思い思いに過ごせる場所を多様に設けております。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族と相談し、本人が普段使用していた物や安心できる物を持ってきて頂き、安らげるよう自宅に近い雰囲気になっております。仏壇、テレビ、アルバムや写真たて、本棚、装飾品や人形等、様々な物が居室に置いてあります。			
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を把握し、補助具を使用したり、居室の入り口にぬいぐるみを下げたり、トイレの文字を大きく掲示したり、理解しやすいように援助しております。危険防止に努め自立した生活が安全に送れるよう工夫しております。			